

第3回 川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和3年(2021年)10月31日(日)10:00～13:00
場所	松枝小学校 体育館
出席者	参加者:荒井、稲原、白鳥信、田倉、高野、外山、内藤(佳)、内藤(ト)、中尾、中村、平井、古田、安田、山口 法政大学図司ゼミ学生:川端、齋藤、佐藤、波戸崎、福川、武藤、河原、竹内、田中、横田 社会福祉協議会:馬場 高齢者あんしん相談センター川口:小林、太田 高齢者あんしん相談センター恩方:勝野、長内 第1層生活支援コーディネーター:今泉 未来デザイン室:今川、野田、安齋、牧瀬 RPI:笠原、伊藤、岩崎
見学者	川口中学校:鷺尾校長 八王子未来CAN-VAS:福田 川口児童館:井垣
配付資料	・第3回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 川口中学校区の将来ビジョンを実現するためのアクションプラン一覧(案) ・資料2 川口中学校区アンケート調査依頼文(案)、アンケート調査票(案) ・第2回推進会議資料 川口中学校区地域カルテ(レイアウト案)

1. 開会

- ・未来デザイン室から挨拶。

2. オリエンテーション

- ・法政大学 図司ゼミ学生の紹介。

3. 議題

(1) 学生と地域の魅力について語ろう

「法政大学図司ゼミ学生(以下、学生)という。」から、令和3年(2021年)5月に行った川口地区の現地踏査の結果とともに、今後、学生が関わるにあたっては、名前呼び合う関係になることを目標にしているとの報告を受けた。主な説明概要は、以下のとおり。

3年生

市民に寄り添う温かいまちの印象をもった。インフラ面に課題があると聞いていたが、駅からのアクセスはバスも通っていることもあり、不便とは感じなかった。地域の資源である「川口エンドウ」をきっかけに多世代交流できるのではと考え、その可能性について御意見を伺いたい。また、参加者の皆様との意見交換を通じて、住民の皆様からみた強み、魅力などを再発見していきたい。

2年生

自然が豊かで予想よりも居住者が多い印象。公園も多く、ファミリー層の利用も高いと感じる一方、道幅が狭く、スーパーやコンビニなどの店舗が少ない。方向性として、観光を通じたまちづくりというよりは、居住地としての魅力を伸ばしていくことに注力した方が今ある長所を伸ばせるのではないかと。

参加者の意見

- ・川口エンドウは昭和 30 年代に地域活性化を目的として絹さやのブランド化に取り組んだもの。生産コストが見合わず、5 年間で生産終了。7 年前に再度ブランド化を目指して立ち上げたが、年間の生産量が 100 キログラムに満たず、ブランド化や市場出荷は難しい状況。
- ・川口地区は車がないと生活できない。車の運転が困難になった高齢者などは、生活に支障が生じる。
- ・一人暮らしの高齢者が増えている。若い学生に携わってもらい、一緒にまちのことを考えていきたい。
- ・居住地としての魅力は庭付き一戸建てに住めることだが不便も多い。魅力を見つけて伸ばしていきたい。

(2) 地域の将来ビジョンを検討しよう

地域の将来ビジョンの決定方法の案を事務局から説明し、これまでの中学校区別ワークショップや推進会議で出された意見、共通するキーワードをもとに、第 4 回推進会議で将来ビジョンを決定することで合意した。決定方法に関する参加者の主な意見は、以下のとおり。

- ・これまでの議論で意見やキーワードは出尽くしており、同じ議論を繰り返している印象。すでに具体化する段階にあるのではないか。
- ・第 2 回推進会議において議論された「プラットフォーム」について、推進会議の拠点となる場所、運営する体制を市と住民が協働し、どこにつくるか、運営するかといった具体的な検討をする必要がある。
- ・市が実施した学生アンケート結果で、八王子に住み続けたいという回答がゼロだった。持続可能な地域を目指していくためには、次世代の担い手が途切れてはいけなと感じた。将来に向けたより良いまちづくりについて学生の意見も聞いてみたい。
- ・第 3 回推進会議では、学生と情報共有し、どのような方法で地域の活性化ができるのかを話し合えると期待している。知らないことを知る場にしたい。
キーワードが出尽くしているとの御意見もあるが、将来の目標をしっかりと見据えたうえでアクションプランの検討をしていただきたいと考えている。プラットフォームについて、今後も継続的に議論を進めていきたい。(未来デザイン室)

(3) アクションプランを検討しよう

資料 1(川口中学校区の将来ビジョンを実現するためのアクションプラン一覧(案))をもとにこれまでに出たアクションプランについて事務局から説明し、優先したい分野、連携できそうな分野について意見交換を行った。参加者の主な意見は以下のとおり。(詳細は、「第 3 回川口中学校区地域づくり推進会議ワーク内容」参照)

地域コミュニティの活性化

- ・情報共有が大切。地域でコミュニティカレンダーをつくり、無駄のない活動をしたい。
- ・交通の整備がされていないことが介護離職につながっている。
- ・移動販売が欲しい。
- ・医療機関への移動支援など生活支援サービスや子供の居場所が地域に必要。
- ・見守り隊やボランティアなど関わる人を増やす。

プラットフォーム

- ・活動拠点がバラバラ。
- ・地域活動に関する情報を収集する拠点、全体を見渡せる人が必要。
- ・新しい拠点だけでなく現在ある施設も活用できるのではないか。
- ・一か所に集まり、住民と行政が連携して考え、活動できる場がほしい。

・一定の権限をもち、事業化した際には予算を付けられる組織をつくりたい。

地域の担い手の育成

- ・地域づくりに関わる人を増やす。若い担い手が必要。
- ・ボランティア活動に特典を付けて参加者(若者)を増やす。
- ・できそうな活動から取り組む。
- ・巻き込むテーマを考える(食、公園マルシェ、ヨガなど)。

情報発信力の強化

- ・川口全体の情報発信が必要。子育て環境がよい、定住できる。
- ・SNSを活用する。

(4) 地域カルテの内容を確認しよう

資料2(川口中学校区の地域づくりに関するアンケート調査 ご協力のおかげ)、第2回推進会議資料(川口中学校区地域カルテ(レイアウト案))を参考に、推進会議参加者以外にも広く意見を聴取するためのアンケートの実施方法などを検討した。地域固有ページの内容は、「活動」「自然」「名所」を主テーマに、次回に具体的に検討することで合意した。参加者の主な意見は以下のとおり。

実施方法

- ・中学校区として一つにまとめられないため、町会自治会連合会では、「町」の単位で考えた方がよいとの意見がある。

住所地だけでなく、団地の中で中学校区が分かれることもある。町会などの地域団体がもつネットワークや、ウェブなどを活用して広く意見を聴取していきたい(未来デザイン室)

アンケート内容

- ・アンケート内容は、短く簡単に答えられるものの方が良い。
- ・将来ビジョンに関する設問は削除した方が良い。アンケートで意見を聴取した際に新しいキーワードが出た場合、議論が戻りかねない。
- ・推進会議で決まったことに対する意見を聞いたほうがよい。
- ・会議に出ていない人は「地域カルテ」とは何かが分からないのではないかと。
- ・居住歴が短い人に、川口を居住地として選んだ理由を聞く設問を入れた方がよいのではないかと。転居してきた住民の理由を把握することで、地域の魅力が把握できる。
- ・問3の回答を推進会議に参加する/参加しないと簡潔にし、その理由を聞くという設問にした方がよい。
- ・「理想のまちの実現」とした場合、「理想のまち」が何なのかが分からないのではないかと。また、各自のイメージもあるので回答することが難しいのではないかと。
- ・小中学校の社会のカリキュラムで川口の良いところを考える授業があり、授業の一環でアンケートを実施できないかと。

学校の授業で実施するにあたっては、スケジュール等の調整が必要だが、地域と学校が連携して今後実施していけたら良いと考える。学校で同様の取組を行っているのであれば、その情報を活用することも考えたい。子ども向けの設問は親子で地域のことを話しあう機会として活用いただきたい。(未来デザイン室)

アンケートの実施方法

- ・長房中学校区では、町会は紙の配布、PTAは既存連絡網(メールやLINEなど)で広く発信することで検討されている。(未来デザイン室)

- ・町会の非加入世帯や、学校に関わりがない世帯は、意見聴取の対象から漏れるのではないか。
地域全体ではなく、推進会議参加者の皆様のできる範囲で実施したいと考えている。皆様の可能な範囲での配布及び回収の方法を考えたい。(未来デザイン室)
- ・町会が高齢化しており、推進会議として求めている必要な情報が集まるかに疑問を感じる。町会よりも小中学校をお願いしたほうが、現役世代や子どもの意見が聴取しやすいのではないか。
- ・PTAにある既存のネットワークを活用して配布することは可能だろうが、簡単なアンケートでも回収率が3割程度だったので回収が見込めるか不明。
推進会議として地域カルテの充実を目的に推進会議参加者のネットワークの可能な範囲で配布いただきたいと考えている。(未来デザイン室)
- ・小中学校を起点に親子をターゲットとするアンケートを依頼することで若い世代の意見はとれる。「学校運営協議会」に依頼することも検討してはどうか。高齢世代の意見は、推進会議を通じて一定程度の意見が得られているので、小中学校を中心にアンケートを実施するのは良いと思う。

◆事務局(未来デザイン室)の整理

- 地域づくりワークショップなど対面での議論の場で聞く機会があるので、将来ビジョンに関する質問は削除する。
- 居住歴に関する質問と転入の理由に関する質問を追加。
- 1つのアンケートで大人と子どもの意見を聴取するため、子ども向けの設問も設ける。
- 選択肢などの表現を簡潔にし、事務局で修正したものを次回の推進会議で御意見をいただく。

(5) 地域づくり推進会議の運営方法を検討しよう

事務局から推進会議の参加者や地域団体との連携について説明し、地域における多様な課題を検討するためにはどのような方、団体が推進会議に必要なのかについて意見交換を行った。参加者の主な意見は以下のとおり。

- ・推進会議は「八王子ビジョン 2022」の改定のためのものか、推進会議はどこまで継続していくのか。
市としては、永続的に続くものとして取り組んでいる。(未来デザイン室)
- ・川口西部町会で子ども会を復活する動きがあり、中心人物となっている市民は外国人向けに「やさしい日本語教室」なども行っている。そういった方も参画できるのではないか。
「地域づくりワークショップ」にまず参加いただき、様子を見ていただきたい。(未来デザイン室)
- ・日本人でなければ参加できないか？外国籍の人への対応が課題となっているなか、外からの目で地域活性化に意見をもらうことが大切であるため、日本人ではない視点の意見も聞いてみたい。
外国人の方も地域在住または、地域に関わりがある方であれば参加可能。地域づくりワークショップに声をかけてほしい。(未来デザイン室)
現参加者を令和3年度(2021年度)の推進会議参加者として決定させていただきたい。地域づくりワークショップに参加いただいた方の常時参加については、令和4年度(2022年度)からの参加を念頭に、推進会議の体制も含めて議論、決定することで良いか。(未来デザイン室)
- ・異議なし
推進会議での議論は、推進会議参加者が所属する団体に持ち帰って情報共有していただきたい。今後、具体的にどのように行動につなげていくか、地域で集まる場所をどこにしていかなど、推進会議のなかで検討していきたい。(未来デザイン室)

4. その他

次回の推進会議の開催日時等を確認するとともに、地域づくりワークショップに関する依頼を参加者に行った。

・第4回推進会議

開催日時:11月14日(日) 9時30分から

場所:川口中学校 被服室

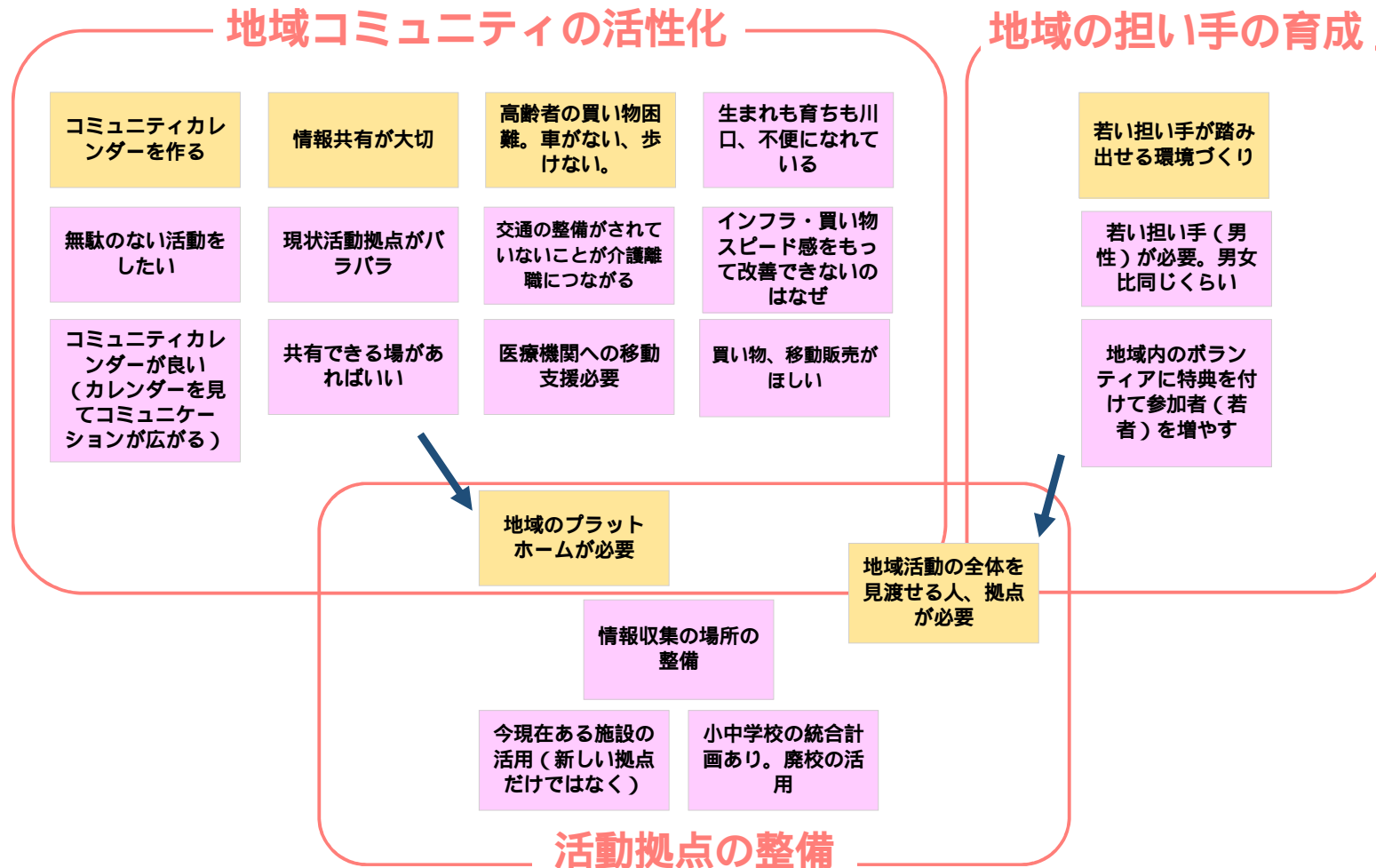
・12月5日(日)開催予定の地域づくりワークショップにおいて、現在人数に空きがある状況。次回推進会議の開催案内に推薦書を同封するので、推進会議参加者お一人あたり、1名を推薦いただきたい。

以上

第3回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループワーク アクションプラン

グループ①



第3回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループワーク アクションプラン

グループ②

目指すもの

住民自治

バス路線等の維持

生活環境の維持、
持続可能な地域

課題

人を増やす

空家利活用

- ・急速に増加
- ・オーナーが協力しやすいようにできるか？

ボランティア有償化など参加しやすい仕組み。

優先すべき取組み

情報発信力強化

川口全体の情報発信

まず知ってもらえないと、
来たり住んだりしてもらえない。

自然、土、緑がある
(子育て環境)

定住できる
(家が安い)

活動拠点整備

地域と行政が一緒に活動

地域の計画、
取組みの基盤となる場所

公園の充実

地域ニーズに応じた
施設整備

地域コミュニティ活性化

見守り隊

ボランティア

関わる人などを増やす

生活支援サービス

子供の居場所

地域に必要なこと

学生視点

強烈な魅力、
コンテンツが
まずありき

観光魅力
⇕
住む魅力

「メチャメチャ
〇〇な」と
打ち出す

自然が豊かで
子育て環境が良い

空家を利用して
施設を整備する
Ex.小菅村

第3回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループワーク アクションプラン

グループ

